

1 受賞団体・個人の名称

いなえさげかすまいぶかい
JA 東びわこ稲枝酒粕米部会
 (滋賀県彦根市)

(問い合わせ先)
 東びわこ農業協同組合西事業本部
 TEL 0749-43-3720

(経歴)

平成8年から「酒造会社が酒粕を提供し、農業者はその酒粕を肥料として米を作り、酒造会社はその米で日本酒を作る」という、新たな循環型の米づくりに取り組んでいる。

(受賞時の経営内容) 37.5ha 農業者17名と集落組織1団体



2 生産面の取組

基肥・追肥・穂肥の窒素成分の全量を酒粕由来の専用肥料とし、土作りは堆肥を利用して栽培している。



平成11年に肥料会社と協働で、酒粕の粒状肥料化に成功、現地ほ場で実証試験を繰り返し、酒粕部会専用の酒粕肥料を開発した。

IT技術を駆使した生育診断技術を活用し、最適な施肥時期、施肥量を決定し品質、収量向上に努めている。

日本酒の原料として最適な品質を確保するため、酒造会社から評価を得て、個人ごとの品質分析結果をランク分けし、品質改善に努めている。

平成16年から滋賀県が推進する環境こだわり農産物認証制度により、認証を受け、安全・安心な原料としての信頼を得ている。

3 経営面の取組

酒粕米の取組面積は日本酒の販売量に応じて決定されるため酒造原料米のより一層の品質向上に努めるとともに、JAを通じてこの酒の消費拡大を図り、循環型の米の生産拡大に努めている。

酒粕入り有機肥料を活用した栽培法では、収量は慣行ほ場とほぼ同等、10aあたり約540kgを確保している。酒粕原料の有機肥料は窒素成分が低いために散布量が多くなり、肥料コストは高くなるが、酒造原料米としての付加価値の向上により補われている。



4 取組の成果

平成8年に40aから始まった取り組みは、平成11年、技術確立以降は約40haで定着し、毎年3,000俵を安定的に出荷している。

実需者である酒造会社の発想から取り組みを開始し、農業者の経験、新たな実証等を通じて、求められる酒造原料米の生産を確立することができた。これによって、米から酒までの生産者としては有機質資材の循環を通じた環境保全型農業の実践を、地域に対しては環境こだわり農業の普及の役割を果たすことができた。

5 地域社会への貢献

農業者だけにとどまることなく、農業団体や食品産業関係者等と一体となって、取り組んでおり、地域全体で「環境保全型農業の将来モデル」としての資源循環体系が確立できた。

部会構成員は地域の農地・水・環境保全向上対策の活動組織の中心的メンバーとして環境保全型農業の推進に努めており、小学生への生き物観察など地域住民とともに幅広い活動を展開している。

